

『論道』 命題一覧

本 間 次 彦

1940年に商務印書館より刊行された『論道』は、20世紀の中国において異彩を放つ哲学者、金岳霖（1895-1984）の代表作である。筆者は、『論道』に関連して最近二つの論文を執筆した。以下の二作である。

- ① この世界とこのような世界 —— 金岳霖, 「道」を論ず ——

「明治大学教養論集」429号, 2008年1月

- ② 始まりのない始めから終わりのない終わりへの道をどのように歩くか
—— 金岳霖と朱子学と20世紀の中国哲学

『国際地域の社会科学Ⅲ 日本・アジア編』

明治大学政治経済学部, 2008年3月

『論道』は、その本論八章が、計210の命題と各命題に付された解説とによって構成されている。『論道』を論じようとする際には、各命題間の相互関係を緻密に跡づける作業がその準備段階で必要となることは言うまでもない。ところが、現在利用できる『論道』のテキストは、いずれもその目次においては章名を表示するだけで、各章を構成する命題の一覧を掲げていない。『論道』命題一覧の作成は、研究者の自主性にゆだねられてしまっているのである。筆者もまた上記の論文の執筆に先立って、『論道』命題一覧を作成していた。今後新たに『論道』研究に志す研究者に便宜を提供すること

を意図して、ここに資料として発表することにした次第である。

ところで、現在利用できる『論道』のテキストには、以下の三点がある。

(1) 商務印書館本

1987年8月第1版, 1987年8月第1次印刷

この版は1994年5月に第2次印刷されている。

(2) 『金岳霖文集』本(甘肅人民出版社)

1995年7月第1版, 1995年7月第1次印刷

『金岳霖文集』第2巻に収録されている。

(3) 『中国現代学術經典 金岳霖卷』本(河北教育出版社)

1996年8月第1版, 1996年8月第1次印刷

ただし、(2)(3)のテキストは、実際には、いずれも(1)の商務印書館本に基づいて印刷されたものである。このような事情を踏まえて、以下に掲げる『論道』命題一覧では商務印書館本を底本として採用することにした。

次に、『論道』命題一覧を利用するに際しての、いくつかの注意点を挙げておく。

- 1) 各命題を提示した後に、その命題が登場するページ数を掲げている。
- 2) 『論道』の各命題には一・一、一・二のように漢数字による命題番号が付されているが、本一覧ではそれを(1-1)(1-2)のように表記している。
- 3) 商務印書館本に見られる一部の句読点等のふぞろいには、必要最小限の修正を加えている。ただし、文字に関しては一切変更していない。

论 道

绪论 1

第一章 道，式—能 19

(1-1) 道是式—能 19

(1-2) 道有“有”，曰式曰能 19

(1-3) 有能 19

(1-4) 有可能 21

(1-5) 有式，而式是析取地无所不包的可能 22

(1-6) 道无“无” 24

(1-7) 无无能的式，无无式的能 24

(1-8) 能无生灭，无新旧，无加减 26

(1-9) 式无生灭，无新旧，无加减 28

(1-10) 式或能无所谓存在 29

(1-11) 式或能无终始 30

(1-12) 式与能无所谓孰先孰后 31

(1-13) 式无二 33

(1-14) 能不一 34

(1-15) 式无内外 35

(1-16) 能有出入 36

(1-17) 式常静，能常动 37

(1-18) 式刚而能柔，式阳而能阴，式显而能晦 38

(1-19) 道非式 38

(1-20) 道非能 38

(1-21) 道无生灭，无新旧，无加减，无终始，无所谓存在 39

(1-22) 道无二，亦无内外 39

(1-23) 道无动静，无刚柔，无阴阳，无显晦 39

(1-24) 道无出入 39

(1-25) 能出为道, 入为道 39

(1-26) 居式由能莫不为道 40

第二章 可能底现实 42

(2-1) 可能之现实即可能之有能 42

(2-2) 有不可以不现实的可能 42

(2-3) 现实是一现实的可能 42

(2-4) 无不可以现实的可能 43

(2-5) 有老是现实的可能 43

(2-6) 有老不现实的可能 44

(2-7) 未现实的可能是可能 45

(2-8) 除式外有现实的可能 45

(2-9) 有未现实的可能 46

(2-10) 所有现实的可能不都老是现实的 46

(2-11) 所有未现实的可能不都老是不现实的 47

(2-12) 有轮转现实的可能 49

(2-13) 变是一现实的可能 50

(2-14) 不变是一现实的可能 51

(2-15) 现实的可能底现实先于未现实的可能底现实, 而未现实的可能底现实
后于现实的可能底现实 52

(2-16) 可能的轮转现实有先后 52

(2-17) 先后是现实的可能 53

(2-18) 不老是现实的可能底现实或者有始或者有终 53

(2-19) 终始都是现实的可能 55

(2-20) 可能底现实底终始有先后 55

(2-21) 可能的现实底终始底先后有秩序 55

- (2-22) 时间是一现实的可能 57
- (2-23) 同时现实是一现实的可能 58
- (2-24) 一可能底现实有同时成虚的可能 59
- (2-25) 一可能底现实有均等现实的可能 60
- (2-26) 一可能底现实有均等未现实的可能 60
- (2-27) 老是现实的可能包含不老是现实而现实的可能，不老是现实而现实的可能包含在老是现实的可能 61
- (2-28) 如果第一现实的可能包含第二现实的可能，而第二现实的可能包含在第一现实的可能，则第一现实的可能大于第二现实的可能，而第二现实的可能小于第一现实的可能；而大小是现实的可能 62
- (2-29) 如果两现实的可能彼此包含，则它们相等，而相等是现实的可能 63
- (2-30) 本然世界是老是现实的“现实” 64

第三章 现实底个体化 66

- (3-1) 现实并行不悖 66
- (3-2) 现实并行不费 68
- (3-3) 现实底具体化是多数可能之有同一的能 69
- (3-4) 现实底具体化所以使现实并行而不悖 69
- (3-5) 具体是一现实的可能 70
- (3-6) 现实底个体化是具体底分解化、多数化 71
- (3-7) 现实底个体化所以使现实并行而不费 71
- (3-8) 个体是一现实的可能 72
- (3-9) 共相是个体化的可能，殊相是个体化的可能底各个体 73
- (3-10) 分别地表现于个体的共相是现实的性质 75
- (3-11) 联合地表现于一个以上的个体的共相是现实的关系 76
- (3-12) 各个体的历史都是可能在该个体上的轮转现实与继续现实 76
- (3-13) 本然世界无不变的个体 77

- (3-14) 各个体底时间上的关系都是共相 78
- (3-15) 如果在某一时间 t ，第一个体底“能”是第二个体底“能”，而第二个体底“能”一部分不是第一个体底“能”，则第一个体容纳在第二个体，而第二个体容纳第一个体 79
- (3-16) 如果第一个体容纳第二个体，则第一个体底容量大于第二个体 79
- (3-17) 在任何时间，本然世界底容量即那时间的空间 80
- (3-18) 在任何有量时间，任何个体不小到不可以有内，不大到不可以有外 82
- (3-19) 各个体底空间上的关系都是共相 84
- (3-20) 各个体底面积上的关系都是共相 84
- (3-21) 容量与面积底大小都有秩序 85
- (3-22) 一现实可能底个体底尽性是那些个体达到那一现实可能底道 86
- (3-23) 各个体都彼此互相影响，从性质说，一个体受一部分个体底影响，从关系说，一个体受任何个体底影响 87
- (3-24) 每一个体都反映整个的本然世界 88
- (3-25) 共相底关联潜寓于个体界 90

第四章 共相底关联 91

- (4-1) 可能底关联有可能底关联 91
- (4-2) 可能底关联有必然的关联，而必然的关联为逻辑 91
- (4-3) 必然与必然之间有必然的关联，而根据此关联有不同的逻辑底秩序 92
- (4-4) 逻辑底秩序是直线式的秩序 94
- (4-5) 逻辑底秩序无一定的起点，有不同的方向 95
- (4-6) 逻辑底秩序不能以任何项目为起点，不能以任何排列为方向 96
- (4-7) 逻辑底秩序虽可以独立于共相底关联而不能独立于可能底关联 99
- (4-8) 共相底关联有可能的关联 101

- (4-9) 共相底关联有现实的关联 102
- (4-10) 共相底现实的关联表现于个体 103
- (4-11) 表现于各个体的有方面不同的共相 104
- (4-12) 方面不同的共相都分别地各有它们本身底关联 105
- (4-13) 任何一方面底关联不能独立于其它共相底关联 106
- (4-14) 任何一方面底关联有逻辑上的秩序 106
- (4-15) 任何方面底秩序是直线式的秩序 107
- (4-16) 任何一方面底秩序无一定的起点，有不同的方向 108
- (4-17) 任何一方面底秩序不能以任何可能或共相为起点，不能以任何排列为方向 108
- (4-18) 一共相与其它共相底关联不止于一方面 109
- (4-19) 离开秩序任何一共相均无所谓根本与不根本 110
- (4-20) 共相底关联有层次 110
- (4-21) 共相底关联有内在与外在底分别 111
- (4-22) 共相底共有等级 112
- (4-23) 相对于任何时间，共相底可能的关联范畴未现实的关联，共相底现实的关联显示未现实的关联 113
- (4-24) 共相底关联有至当不移的秩序 114

第五章 时一空与特殊 115

- (5-1) 现实的时空是个体化的时一空 115
- (5-2) 个体化的时一空底秩序以个体为关系者 115
- (5-3) 在个体化的时一空中，任何时间可以渐次缩小，时面是这渐次缩小程序底极限 116
- (5-4) 时面是无时间积量的整个的空间。时间有无量数的时面 117
- (5-5) 在个体化的时一空中，任何空间可以渐次缩小。空线是这缩小程序底极限 118

- (5-6) 空线是无空间积量的整个的时间。空间有无数数的空线 119
- (5-7) 任何时面与一空线仅有一交叉点, 任何空线与一时面仅有一交叉点。
此交叉点, 为时点—空点 119
- (5-8) 任何时面任何空线均有无数数的时点—空点 120
- (5-9) 以任何时间为单位, 先于此单位者为此单位之既往, 后于此单位者为此单位之将来。以任何时间为单位, 对于此单位之外之空间, 此单位有所居, 对于单位之内之空间, 此单位有所据 121
- (5-10) 任何时面据而不居, 往而不返, 任何空线居而不据, 不往不来, 任何时点—空点既往而不返又居而不据 122
- (5-11) 任何时面, 任何空线, 任何时点—空点在时—空秩序中均有至当不移的位置 123
- (5-12) 绝对时—空底绝对秩序以时点—空点为关系者 124
- (5-13) 个体化的时—空底秩序根据于绝对时—空底秩序 125
- (5-14) 特殊是现实之往则不返或居则不兼的可能。特殊是一现实的可能 126
- (5-15) 时面、空线、时点—空点都是可能, 都是特殊底极限 127
- (5-16) 个体底特殊化, 即个体底时—空位置化 128
- (5-17) 时面上的个体是个体时间特殊化底极限 129
- (5-18) 空间底时间特殊化即空间底时间位置化。时面上的空间是空间底时间特殊化底极限。地点是特殊的空间 130
- (5-19) 空线底时间特殊化即空线底时间位置化。时点—空点是空线底时间特殊化底极限 130
- (5-20) 任何两时间的整个的空间仅有绝对时间上的先后, 任何两地点的整个的时间仅有绝对空间上的关系 132
- (5-21) 任何两时间的任何一部分的空间, 任何两地点的任何一部分的时间都兼有相对的时空关系 132
- (5-22) 个体虽特殊而特殊化底程度不一 133
- (5-23) 任何一个体所现实的可能是一综合的可能 135

- (5-24) 任何个体所具的殊相是一综合可能底特殊的现实 135
- (5-25) 相对于殊相上的变更, 个体为事体, 相对于共相上的统一, 个体为东西 136
- (5-26) 现在或现代是已来而未往的现实 137
- (5-27) 存在的个体是一现在的个体 138
- (5-28) 事实是已往与现在的现实 139

第六章 个体底变动 140

- (6-1) 在可能底轮转现实中, 有综合可能底特殊的轮转现实 140
- (6-2) 综合可能底特殊的轮转现实即一个体底历史 140
- (6-3) 在一个体底历史中有不同的可能底轮转现实, 此即该个体底大变 141
- (6-4) 在一个体底历史中有各可能底特殊的轮转现实, 此即该个体底小变 141
- (6-5) 无不变的个体。自大变而言之, 在相当时间内有不大变的个体 142
- (6-6) 自能而言之, 现实的时间无空隙, 自个体而言之, 现实的时间亦无空隙 143
- (6-7) 任何个体不能变更它底绝对时间上的位置 144
- (6-8) 自“能”而言之, 空间无空隙, 自个体而言之, 空间有空隙 144
- (6-9) 任何个体均可以变更它底空间上的位置 145
- (6-10) 一个体变更它底空间上的位置即该个体底动 146
- (6-11) 在任何一时间内, 一个体变更它底地点即该个体相对地动 147
- (6-12) 在任何一时间内, 一个体变更它底绝对空间上的位置即该个体绝对地动 147
- (6-13) 在绝对时间底秩序中, 本然世界不停流于同一的绝对的空间底位置。此即本然世界底动 148
- (6-14) 任何个体随本然世界底动而动 149
- (6-15) 无不动的个体, 在某一时间内, 自相对而又兼绝对的动而言之, 有不

相对动或不绝对动的个体 149

(6-16) 个体底变动有共相底关联 150

(6-17) 个体底变动有因果 151

(6-18) 现实原则即任何现实状态底原则 152

(6-19) 自道而言之, 无最前的因, 无最后的果 153

(6-20) 自道而言之, 任何共相关联之下的现实状态为不能或免的现实状态
155

(6-21) 个体底变动有殊相底生灭, 有生生, 有灭灭 157

(6-22) 殊相莫不生, 莫不灭; 生生相承, 灭灭相继; 一殊相底生即另一(或
多数)殊相底灭, 一殊相底灭即另一(或多数)殊相底生 158

(6-23) 特殊底极限既老不现实, 一殊相底生非同一殊相底灭 160

(6-24) 自道而言之, 无最前的生生, 无最后的灭灭 161

(6-25) 自特殊化的个体界而言之, 无最前的生生, 有最后的灭灭 162

(6-26) 自特殊的个体界而言之, 任何时间底现实状态是偶然的现实状态 164

(6-27) 自事实而言之, 无最前的因, 无最后的果, 无最前的生生, 有最后的
灭灭 165

(6-28) 个体底变动均居式而由能 166

第七章 几与数 168

(7-1) 能之即出即入谓之几 168

(7-2) 有理几, 有势几, 自能之即出入于可能而言之, 几为理几; 自能之即
出入于个体底殊相而言之, 几为势几 168

(7-3) 个体底变动莫不出于几入于几 169

(7-4) 个体底变动不为几先不为几后 171

(7-5) 在现实底历程中无量的几皆备 172

(7-6) 相干于一个体底几对于该个体为运 173

(7-7) 能之会出会入谓之数 174

- (7-8) 有理数，有势数，自能之会出入于可能而言之，数为理数；自能之会出入于个体底殊相而言之，数为势数 175
- (7-9) 有数底变动无所逃于数 176
- (7-10) 在现实底历程中无量的数亦备 177
- (7-11) 相干于一个体底数对于该个体为命 177
- (7-12) 现实之如此如彼均几所适然数所当然 178
- (7-13) 自数而言之，这样底世界不会没有，自几而言之，现在适然 180
- (7-14) 自数而言之，人类不至于不现实，自几而言之，现在适然 180
- (7-15) 几与数谓之时 181
- (7-16) 有得于时，有失于时，得于时者适，不得者乖 183
- (7-17) 个体有生有长有成有衰有灭，而生长成衰灭为命 184
- (7-18) 个体底变动适者生存 184
- (7-19) 自知识而言之，几不可测，而数可先知 185
- (7-20) 自意志而言之，运可以改造，命不能改造；自道而言之，几与数均无所谓改造 186
- (7-21) 有知识而又有意志的个体底有意志的变动有手段有目标 187
- (7-22) 手段与手段之间有冲突，有调和；目标与目标之间有冲突，有调和，有矛盾 188
- (7-23) 现实的目标都同时是手段，此为相对的目标 189
- (7-24) 相对的调和与冲突有范围有层次 190
- (7-25) 相对于任何一时期有未现实的目标，相对于任何一时期而在一指定的将来有不会现实的目标 190
- (7-26) 有相对于任何一现在，而在任何时期内不会现实的目标，此为绝对的目标 191
- (7-27) 绝对的目标是综合的目标，此目标达，则几息而数穷 191

第八章 无极而太极 193

- (8-1) 道无始, 无始底极为无极 193
- (8-2) 从时间底观点而言之, 无极为既往, 故不知即不能言 193
- (8-3) 无极为先, 就其为无而言之, 无极为混沌, 万物之所从生 194
- (8-4) 无极为极, 就其为极而言之, 无极非能而近乎能 195
- (8-5) 共相底关联为理, 殊相底生灭为势 198
- (8-6) 无极为理之未显, 势之未发 199
- (8-7) 个体底变动, 理有固然, 势无必至 201
- (8-8) 个体底共相存于一个体者为性, 相对于其它个体者为体, 个体底殊相存于一个体者为情, 相对于其它个体者为用 203
- (8-9) 情求尽性, 用求得体的, 而势有所依归 205
- (8-10) 情之求尽性也, 用之求得体的, 有顺有逆 207
- (8-11) 顺顺逆逆, 情不尽性, 用不得体的, 而势无已时 208
- (8-12) 变动之极, 势归于理, 势归于理则尽顺绝逆 209
- (8-13) 道无终, 无终底极为太极 210
- (8-14) 太极为未达, 就其可达而言之, 虽未达而仍可言 211
- (8-15) 自有意志的个体而言之, 太极为综合的绝对的目标 211
- (8-16) 太极为至, 就其为至而言之, 太极至真、至善、至美、至如 212
- (8-17) 太极为极, 就其为极而言之, 太极非式而近乎式 214
- (8-18) 居式由能, 无极而太极 216
- (8-19) 无极而太极, 理势各得其全 217
- (8-20) 就此全而言之, 无极而太极为宇宙 218
- (8-21) 太极绝逆尽顺, 理成而势归, 就绝逆尽顺而言之, 现实底历程为有意义的程序 219
- (8-22) 无极而太极是为道 220